

人と地球に貢献します



みんなで止めよう温暖化
「エコリカ」チーム・マイナス6%

既存器具にそのまま使用
グロー&ラピッド両対応

紫外線や赤外線を
ほとんど出さない光

一步先の明かりで照明設備をリニューアル

応答速度が速い
優れた点滅性能

割れにくく水銀を
含まないから安全

リサイクル率90%
環境に優しい素材

40
W型

約6,200K
昼光色
相当

消費電力
24W
(直結接続で約20W)

長寿命
5万時間

高品質LEDチップ
154個

G13
口金

蛍光灯形LED
ECL-L40WH

消費電力とCO₂を大幅削減! 次世代照明

エコリカ蛍光灯形LED

寿命
約10倍

電気代
約1/2

CO₂排出量
約1/2

エコリカの蛍光灯形LEDは、高品質LEDチップのみを厳選し、光のバラツキがない従来型蛍光灯に近い明るさを実現しています。従来のグロー式、ラピッド式(1灯・2灯両対応)の既存器具にそのままご使用いただけます(インバータ式の器具は使用できません)。また、安定器を取り外した直結接続では、消費電力をおよそ20Wに抑えることができます。省エネ・長寿命だから、長時間の点灯や取り換えコストを大幅に削減します。

24W 安定器経由 → 20W 直結接続



※試算条件: ●年間約4,380時間(1日12時間×365日)点灯使用した場合を想定
●電力料金目安単価22円/kWh(税込) ●算出基準となるCO₂排出係数は、0.41kg-CO₂/kWh

エコリカLED照明 省エネ・長寿命・環境にやさしいエコリカLED照明は、様々な用途に向けた製品をラインナップしています。



●LED製品の消費電力・推定寿命は使用条件や環境によって異なります。●表示価格は店頭想定価格(税込)です。●製品写真は製品の一部です。予告なく仕様または外観の一部を変更することがあります。



インクジェットプリンタ用インクカートリッジのリユース・リサイクル事業を展開するエコリカは、フジサンケイグループが主催する「第18回地球環境大賞」の「フジサンケイビジネスアイ賞」を受賞しました。

エコリカは製品の売上げ1個につき1円を世界約100ヶ国で活動している地球環境保全団体WWFに寄付しております。



エコリカ
tel.06-6631-5308

エコリカLED

検索

http://www.ecorica.jp/led/

インクカートリッジをリユース、リサイクル 全国7000店舗にエコリカ回収BOXを配置

再生インクカートリッジ事業

エコリカ

環境ベンチャーのエコリカ(大阪府)は、2003年からインクジェットプリンター用の使用済みインクカートリッジをリユース(再使用)、リサイクル(再資源化)するシステムを構築、ビジネス展開している。回収実績は今や年間2000万個の水準に達し、そのうち75%はカートリッジとして再製品化され、残る25%も再生プラスチックや焼却熱などに再資源化され有効活用されている。(フジサンケイビジネスアイ記者・立山 篤)

エコリカのインクカートリッジ・リユース事業は、顧客から回収した使用済みカートリッジをリサイクル工場に隣接する山梨県の回収センターでクリーニングし、これに新しいインクを充填、密封した後に販売するという一連のサイクルを繰り返すシステム(図1=リユース製品化の流れ)だ。

この間、回収センターでは、回収したカートリッジを厳しく選別、破損などして製品化に適応できなかったカートリッジは、原料に戻すマテリアルリサイクルや燃料として使うサーマルリサイクルで有効活用している(図2参照)。

同社がまとめた最新データである2007年の実績によると、同年に回収した使用済みインクカートリッジの総数は1975万個で、うち75%、カートリッジ数にして約1400万個が再製品化された。このうち約1000万個は実際に販売され、400万個は製品化に備えて保管されたという。

一方、残りの25%、約500万個はリサイクルに回された。このうち24%はマテリアルリサイクルされ再生プラスチックとして運搬用コンテナ生産のための材料などに使用、1%はサーマルリサイクルし熱エネルギーとして利用した。

同社は、このシステムを構築以来、全国に市場を

広げ、現在5~6社を数えるわが国のリユースタイプのインクカートリッジ販売市場では数量換算でおよそ85%と断トツのシェアを占める。エプソン、キヤノンの大手が圧倒的なシェアを占める純正品を含むインクカートリッジ全体市場でも同10%程度のシェアにまで拡大。このため最近、回収センターを岐阜県にも増設すると同時にエコリカ専用の再生工場をフィリピンにも開設した。

低価格志向、環境意識の高まりが追い風

こうした同社のリユースカートリッジの市場拡大の背景について社長の宗廣宗三(写真)は、「第1に純正品に比べて価格が30%程度安いこと。第2は近年の地球温暖化防止に向けた環境意識の高まり」と説明する。



昨年秋の米国サブプライムローン問題に端を発した金融危機、これにともなう世界不況の波はわが国も例外ではなく、いまだに各企業は厳しい経営状況を迫られている。そうした中で事務用品などとして使用されるインクカートリッジにも「少しでも安いものを」という願いは当然のこと。それだけに、30%もの価格差は断然有利に働くわけだが、宗廣は「安かろう悪かろうでは決してないので誤解のないように」と念を押すことも忘れない。

リユースとはいっても、充填するインクは世界中のインク専門メーカーとの連携のもとにオリジナルインクを機種ごとに開発、製造し、各工程ではチェックや検査に万全を尽くし、安心して利用できる品質づくり体制を構築していることを強調する。

さらに最近の環境意識の広がりが、同社製品に対する購買意欲の高まりや取り扱い店の増加となってこの取り組みを後押ししている。

先に記した2007年の1975万個のカートリッジ回収とそのリユース・リサイクルは、同社試算によると、石油系資源節約に換算してリユース化で約290t、リサイクルで約98tの節約に相当するという。当然これに伴う二酸化炭素(CO₂)の排出も削減され環境への貢献は大きい。

また創業時から製品売上げ1個につき1円をWWF(世界自然保護基金)に寄付を続け、寄付額は

これまでに延べ2000万円余に達している。

こうした環境貢献への実績が認められて、2007年には環境配慮型製品の普及を促進するグリーン購入法適合品に認定、また、2008年には偽装問題などから審査基準が厳しくなったエコマーク新基準「再生インクカートリッジ」の承認第1号に選ばれた。同年4月にはこれらの企業活動が評価されフジサンケイグループが主催する「地球環境大賞」のフジサンケイビジネスアイ賞も受賞した。

「エコリカ回収BOX」の設置を全国普及

同社のビジネスモデルにとって肝心なのは、企業や家庭から大量に廃棄される使用済みインクカートリッジをいかに数多く効率的に回収するかにある。

宗廣は、「2008年にはその回収総数は2000万個を超えた」と話す。これら使用済みカートリッジの回収を担っているのが「エコリカ回収BOX」と、「循環型商品」をコンセプトに創業当初から使っている商品パッケージ袋による回収である。

現在、回収BOXは、家電量販店やパソコン専門店、カメラ量販店、さらに最近ではイオンなど大手スーパーなどの全国約7000店舗に、「エコリカロゴマークの画像」がデザインされたものを設置、佐川急便による宅配便を利用して山梨県の回収センターに集約しているが、宗廣は「まだまだ普及させたい」と意気込む。

その一環として最近実現したのが、りそな銀行が中心になって展開している新マーケット創造企画「REENALプロジェクト」への同社の参加。近畿2府4県の141店舗に独自のチビデクー型回収BOXの設置を始めている。このプロジェクトでは回収カートリッジ1個につき20円をWWFジャパンに寄付することになっている。(文中敬称略)

用語

【マテリアルリサイクルとサーマルリサイクル】

エコリカでは、使い済みインクカートリッジのリユースによる製品化と合わせて、製品化に適しなかったカートリッジをリサイクルして有効活用している。このうちマテリアルリサイクルは、破損したカートリッジを粉砕し再生ペレットに再資源化することをいい、同社ではこれを利用して運搬用コンテナの生産を開始し、物流で使用される段ボールなどの消費材削減に貢献している。一方、サーマルリサイクルは、さらに再生利用できなかったカートリッジ以外の部材類やゴミを焼却しその熱エネルギーを回収、利用することで、セメント工場などへ供給している。

図1 リユース製品化の流れ



図2 2007年のリユース・リサイクル実績図

